

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・5月の売上は、2024年比で119.2%、2023年比で156.7%、2022年比で279.4%、2021年比で1205.1%、2020年比で3707.5%、2019年比で113.8%となっている。客船の寄港が4隻あったこともプラスであった。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィークが過ぎ、本格的な行楽シーズンを迎えていることで、来客数が前年を上回っている。販売量も前年並みを維持しており、商品単価の上昇分が売上の増加につながっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・パンや総菜の販売量が前年比99%ほどと、前年を僅かに下回るくらいの数値となっており、3か月前と比べると、景気は若干上向いている。
	○	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・医薬品業界についても、商材の値上げが続いていることもあって、値上げ前の駆け込み需要がみられるようになっている。ただし、今後に向けて、気の抜けない状況である。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク以降、当地の行楽シーズンに入っていることで、観光客が増えており、それに伴って来客数も増加している。売上もレストラン部門を中心に伸びている。大型クルーズ船の寄港やインバウンドの増加も来客数の増加要因となっている。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・インバウンドを含む個人客の利用が順調に推移しており、輸送量が伸びている。
	○	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・今の建築単価が下がらないことが、世間の常識になりつつあることで、そろそろ建築しようという客の動きが出始めている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・地域住民の買物姿が余りみられない。公共交通機関を利用して来街する買物客もまばらである。外国人観光客も、街中で日本語以外の会話がほとんど聞かれないことから、例年以上に少ないと感じる。毎日のように商材の値上げが行われていることもあって、客の消費マインドが刺激されることもない。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・平日の売上が低調であり、週末の売上でカバーする状況が続いている。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・5月に入り、インバウンドの来客数が減少傾向にある。そのため、ブティックを始めとしたインバウンド需要の高い商材の動きが悪くなっている。また、地域の景況感は、依然として厳しい状況が続いているため、景気は若干の下向きとなっている。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・気温がそれほど上がっていないこともあって、衣料品などの季節商材の動きは今一つである。一方、ランドセルなど、購入する必要のある商材の動き出しは早い。客は、不要不急の買物は先送りするが、必要な買物にはしっかりと金を掛けている。
	□	スーパー（従業員）	単価の動き	・物価高騰の影響により、景気は今一つである。今後についても不安がある。
	□	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・商材が値上がりしていることで、売上は一見良くみえるものの、来客数が減少していることから、販売量が減少している。今後、消費が増えてくることも考えにくい。
□	衣料品専門店（エリア担当）	販売量の動き	・気温が上がり始めたことで、衣料品を買い求める客が増えている。ただし、天候や気温に左右されることが多いため、必要に応じて必要な物だけを買う傾向はそれほど変わっていない。	
□	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・エアコンの販売は順調に推移しているものの、商品全般が値上げ傾向にあるため、全体的に横ばいでの推移となっている。	

□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・ここ最近、販売量及び来客数に大きな変化がみられない状態が続いている。
□	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・サービス部門の収益による下支えはあるものの、新車も中古車も受注量が前年を30%下回っている。
□	自動車備品販売店 (店長)	それ以外	・小売部門の売上は前年比で10%減となっているものの、車検台数は前年比125%と好調に推移している。客からは、欲しいけど買えない、他で使う費用があるといった声をよく聞く。
□	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・昼食の動きが良かったことから、5月の売上は前年並みが見込まれる。夕食は振り客が少なく、限られた予約客のみの利用にとどまっているうえ、全体的になじみの地元客の利用割合が減っている。食材は、輸入品を中心に仕入れ価格の高騰が止まらない。一方、地元の高級飲食店などが北海道産の高級魚の利用を控えたことで、通常よりも安値で仕入れることができる週もある。漁業者や卸会社にとっては厳しいのかもしれないが、安く購入できた高級魚を客にアピールして、適正価格で販売していきたい。
□	スナック (経営者)	来客数の動き	・外出する地元客はなかなか増えてこないものの、観光客はますます増えてきている。ただし、地元客を中心に、バーやスナックに立ち寄ることがかなり少なくなっている。
□	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・個人旅行の来店販売量が引き続きやや減少している。一方、大阪・関西万博などを目的とした団体旅行の販売量が増加している。
□	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・前月と同様に、先行きの旅行に対する問合せ件数が例年よりも少ない状況が続いている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関連の注文は例年並みであった。毎日の来客数についても変化がみられず、特に変化がみられない状況にある。
□	通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・地域の中核都市も含めて、都市部で競合他社への流出が加速しており、加入者数が前年を下回る状況が続いている。一方、全国的に展開している付帯サービスの利用による収入と法人部門の売上が増加していることから、全体的には何とか現状を維持できている。
□	美容室 (経営者)	お客様の様子	・暖かくなり、暖房費や除雪費などの負担が減少していることで、以前よりも客の来店周期が多少短くなっている。そのため、売上が約10%増加している。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを来訪する客の多くが生活費のことを気にしており、そのことがマンション購入の抑制につながっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・地価や建築単価が高止まりしていることから、景気は変わらない。
▲	商店街 (代表者)	単価の動き	・物価高が続くなか、米の価格も上昇していることで、将来不安がますます大きくなっている。節約する消費者が増えており、価格に対して敏感になっている。
▲	商店街 (代表者)	お客様の様子	・客の反応は決して良くない。景気の良い話も全くみられない。
▲	商店街 (代表者)	来客数の動き	・物価の高騰やガソリン価格の高騰により、客の消費が著しく減少している。生活防衛意識の高まりにより、外出機会も激減しており、来客数が大幅に減少している。特に飲食店は、米や燃料、原材料の価格高騰の影響が大きく、価格転嫁せざるを得ない状況となっている。一方、価格が上がってしまうことで、大人数や家族での利用が大きく減少するといった影響もみられている。
▲	スーパー (店長)	お客様の様子	・客から、物価高で生活が苦しいという話をよく聞く。
▲	スーパー (企画担当)	販売量の動き	・主食の米を始めとする食品全体の値上げの影響が、買上点数の減少という形で現れている。
▲	スーパー (役員)	お客様の様子	・米の価格の高止まりが、弁当類の価格にも影響してきた。昼の弁当が高くて大変だという客の声をよく聞くようになった。

▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は前年並みを維持しているが、商品の値上げによるものである。一方、来客数は前年を下回っている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・客の購入点数が減っている。来客数も減っており、客のコンビニ離れが加速している。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高騰により客の節約志向が強まっている。会社としても、仕入価格及び人件費の上昇により、利益が出づらくなっている。
▲	乗用車販売店（従業員）	競争相手の様子	・業界を巡る経営統合の動きに加え、米国の関税の動きを受けて相場が下落していることから、景気はやや悪くなっている。
▲	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、売上の前年比が低下している。季節商材の売上も低調に推移しており、景気は下向きとなっている。
▲	その他専門店 [造花]（店長）	お客様の様子	・前期の数字が落ち込んでいるなか、5月も利益が1割ほど減少しており、厳しい状況にある。物価高もマイナスである。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・来客数が減少している。ただし、様々な物の価格上昇が影響しているのか、販売施策の失策によるものなのか、要因が今一つ判断できない。
▲	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・国内客も、外国人観光客も落ち込んでいる。特に国内客は、旅行会社の集客も、オンライン旅行代理店の集客も減少しており、物価高の影響を強く受けていることがうかがえる。
▲	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・春先を迎え、インバウンドにとっては、冬季と比べて魅力の少ない時期となっていることから、観光客が減少している。ただし、全体的な航空旅客数は、国内線も、国際線も前年を上回っている。国際線は、特に中国路線の利用客の伸びが目立っており、夏季観光に向けて期待できる状況となっている。
▲	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・4月以降、販売量が前年を下回っている。大阪・関西万博需要が盛り上がっている地域もあるようだが、当地では話題になることも少なく、影響がみられない状況にある。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・冬季と比べると、タクシーの利用が減っている。5月のタクシー1台当たりの売上は、冬季を20%ほど下回っている。ただし、当社は乗務員の採用に注力した効果でドライバーが前年よりも30%増えており、タクシーの稼働台数が前年比で30%の増加となっている。タクシー1台当たりの売上も前年を上回っていることから、5月の売上は前年比プラス45%であった。
▲	タクシー運転手	販売量の動き	・今期に入り、夜間の売上が低迷している。全般的に、宴会などを早く切上げて帰宅する人が増加しており、コロナ禍での影響を引きずっている状況にある。
▲	観光名所（従業員）	来客数の動き	・外国人観光客の利用は前年並みであるものの、国内観光客の利用が停滞している。これは、前年あった当地を舞台にした劇場アニメの聖地巡礼による効果が落ち着いたこと、物価高や米国の関税を巡る動きによる先行き不安から外出控えが起り始めていることが要因とみられる。
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数が減少している。客の来店頻度もかなり低下している。
×	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・米国の関税の動きが不透明なことから、景気が回復するような兆しが全くみられない。
×	百貨店（売場主任）	単価の動き	・気温が上がり始めたことで、地元客によるアパレル関連の販売量が回復傾向にあるものの、インバウンドの客単価が大きく落ち込んでいる。
×	スーパー（店長）	販売量の動き	・先行きが不透明な状況にあり、景気の良しあしの判断が難しくなっている。

	×	衣料品専門店 (店長)	単価の動き	・春のピークが過ぎ、夏のクールビス商戦に向かう時期となったが、客の価格に対する反応がシビアになっている。客の様子をみると、米の価格に対する反応よりも厳しくなっていると感じるほどであり、衣料品業界においては、様々なコストの上昇による価格転嫁を認めてもらえない状況にあるのではないかと危惧している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・令和の米騒動が庶民の消費行動に多大な影響を及ぼしている。客の節約意識が強まっており、特にタクシーはその節約対象となっていることから、景気は悪くなっている。
企業 動向 関連	◎	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・5月の販売量が前年比プラス25%であったのに対して、3か月前の2月の販売量は前年比プラス9%であったことから、景気は良くなっている。
(北海道)	○	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・月別の出荷量が見込みを上回った。
	○	建設業(役員)	受注量や販売量 の動き	・新年度受注工事の着工期を迎えるなか、技術者の現場配置が全て完了した。前年度を上回るペースで全現場の稼働が本格化しており、好調な出足となっている。
	○	輸送業(営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・倉庫関係では、バターの保管量が堅調に推移している。本州向けの生乳は、取扱量がなかなか回復してこないが、まずまずの状況で推移している。紙パルプ関連も引き続き好調に推移している。全国的に荷動きが出ていることで、本州向けの雑貨トレーラー輸送も順調である。
	○	輸送業(支店 長)	受注量や販売量 の動き	・さすがに冬季と比べると、荷動きが活発になっている。ただし、2024年問題を背景とした輸送力不足や人手不足が常態化しており、船の荷役作業が滞る事例も頻繁に生じている。同業他社との協業を模索している状況も変わっていない。
	○	その他サービス 業[建設機械 リース](営業 担当)	取引先の様子	・労働者不足問題などはあるものの、堅調な公共投資と民間投資に支えられ、現状は好調に推移している。ただし、今後に向けて、予断を許さない状況ではある。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量 の動き	・3か月前と比べて、売上に変化がみられない。
	□	建設業(従業 員)	受注価格や販売 価格の動き	・建設費の高騰、設計者及び施工者の人手不足の影響で、案件の選別が生じている。現状は、建設費が高くなっても建設したいとする企業のみ、施工者の手配が可能な状況となっている。一方、状況を理解していない発注者が設計を進めた場合は、予算と合わないため、施工を中断し、やり直すことが増えている。そのため、案件数はそれなりにあるものの、実現しない案件が増えている。
	□	広告代理店(従 業員)	受注価格や販売 価格の動き	・受注量について、減少もせず増加もせずといった状態にある。
	□	司法書士	受注量や販売量 の動き	・受注量は例年並みで推移している。ただし、物価が高止まりしていることから、低水準での推移となっている。
	□	コピーサービス 業(従業員)	取引先の様子	・取引先の状況に大きな変化はみられない。また、変化が出てくるような兆しもみられない。
	▲	農林水産業(経 営者)	受注価格や販売 価格の動き	・米価が高騰していること、果物の端境期を迎えていることから、景気はやや悪くなっている。
	▲	家具製造業(経 営者)	受注量や販売量 の動き	・物価高が続いていること、エネルギー価格の高騰が続いていること、米国の関税の動きが不透明なことから、景気はやや悪くなっている。令和の米騒動もマイナスである。
	▲	通信業(営業担 当)	取引先の様子	・周辺企業の販売量が減少している。米国の関税の動きに対する警戒感が強まっていることで、投資の先送りや規模縮小といった動きがみられる。

	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・製造業では、原材料価格高騰や物価高による悪影響の度合いが強まっている。非製造業では、観光需要を取り込むことで業況が改善傾向にあるものの、人手不足により、販売機会の損失が生じているとの話も聞く。これらのことから、現状の景気はやや悪くなっている。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・企業の不動産取引はそれなりの件数があるものの、全体的に登記の受注量が低下している。
	▲	その他非製造業 [鋼材卸売] (従業員)	受注量や販売量の動き	・電話やファックスによる受注件数が大幅に減少している。ベース商材の動きから、客の購買意欲が低下していることがうかがえる。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・求人数は引き続き増加傾向にあり、求人企業との面接件数も3か月前と同じ水準にある。求人企業はとにかく早く人材を採用したいと考えていることから、求人意欲が旺盛であり、人材の提案を促してくる。特に建設業界は技術者不足が常態化しており、技術者がいないことで発注を断っている求人企業もみられる。また、最近になって、DX系、社内システムエンジニアの求人が目立つようになっており、AI時代を踏まえて、社内整備に注力している企業の様子がうかがえる。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・年度が替わり、4月は前年比横ばいでスタートしたが、5月に入り、掲載件数が減少している。ただし、建設、運輸、医療・介護といった業種は堅調に推移している。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・季節要因を除くと、どの業種も3か月前と比べて大きな変化がみられない。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	周辺企業の様子	・初任給を引き上げる企業が増加傾向にあり、新卒採用の競争が激化している。求職者側の選択肢も広がっており、マッチングの質が問われる場面が増えている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比で6.6%の減少となり、2か月ぶりに前年を下回った。月間有効求人数は前年比で4.2%の減少となった。求人数は減少したものの、落ち込みが大きいとまではいえない状況にあるため、景気は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当地における4月の有効求人倍率は0.80倍であり、前年を0.02ポイント下回った。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数や求職者数の動きに大きな変化がみられない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・総じて賃上げの動きがみられるものの、企業努力には限界がある。地元企業からは、人材確保の観点から、新卒者の賃金を上げたいが、社内構造の問題から対応が難しいという声も聞かれる。
	□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・人手不足の状況は続いているものの、特に目立った動きはみられない。
	▲	*	*	*
	×	—	—	—